

科学技術による地域活性化戦略

平成20年5月19日
総合科学技術会議

1. 地域科学技術の現状

一定の成果を上げているが、持続的に活性化するまで至っていない。

プログラムの一定の成果

知的クラスター創成事業

→ 成果：特許出願件数2,230件、事業化件数803件

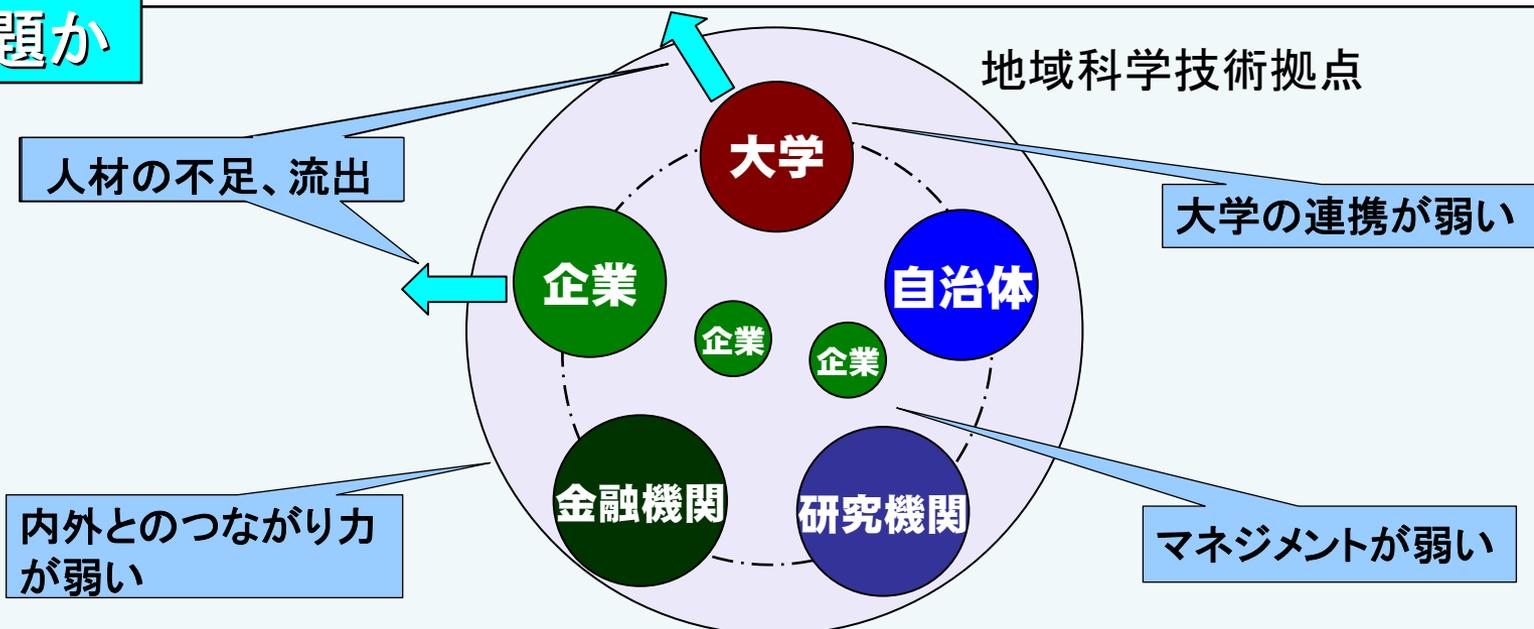
産業クラスター計画

→ 成果：5万件の新事業創出、800件の創業、クラスター参画企業1社当たり平均売上高の増加(平成12年度32億円→平成17年度36億円)

地域科学技術施策連携施策群

→ 成果：8府省17施策の連携強化

何が問題か



2. 基本的視点

■ 地域自らの主体性を前提。国は、それを支援

地域の独自性と国全体としての多様性の確保。 (多様性強化戦略)

■ 「グローバル科学技術拠点」への重点投資

強い拠点をより強くし、グローバル競争に伍する成長センターの形成へ。
(グローバル拠点強化戦略)

■ 新しいビジョンとして「エコシステム形成」

さまざまな拠点が互いに競合、協調することによって、強靱でダイナミックな「地域拠点のエコシステム」が形成。

3. 科学技術による地域活性化戦略～地域拠点のエコシステム～

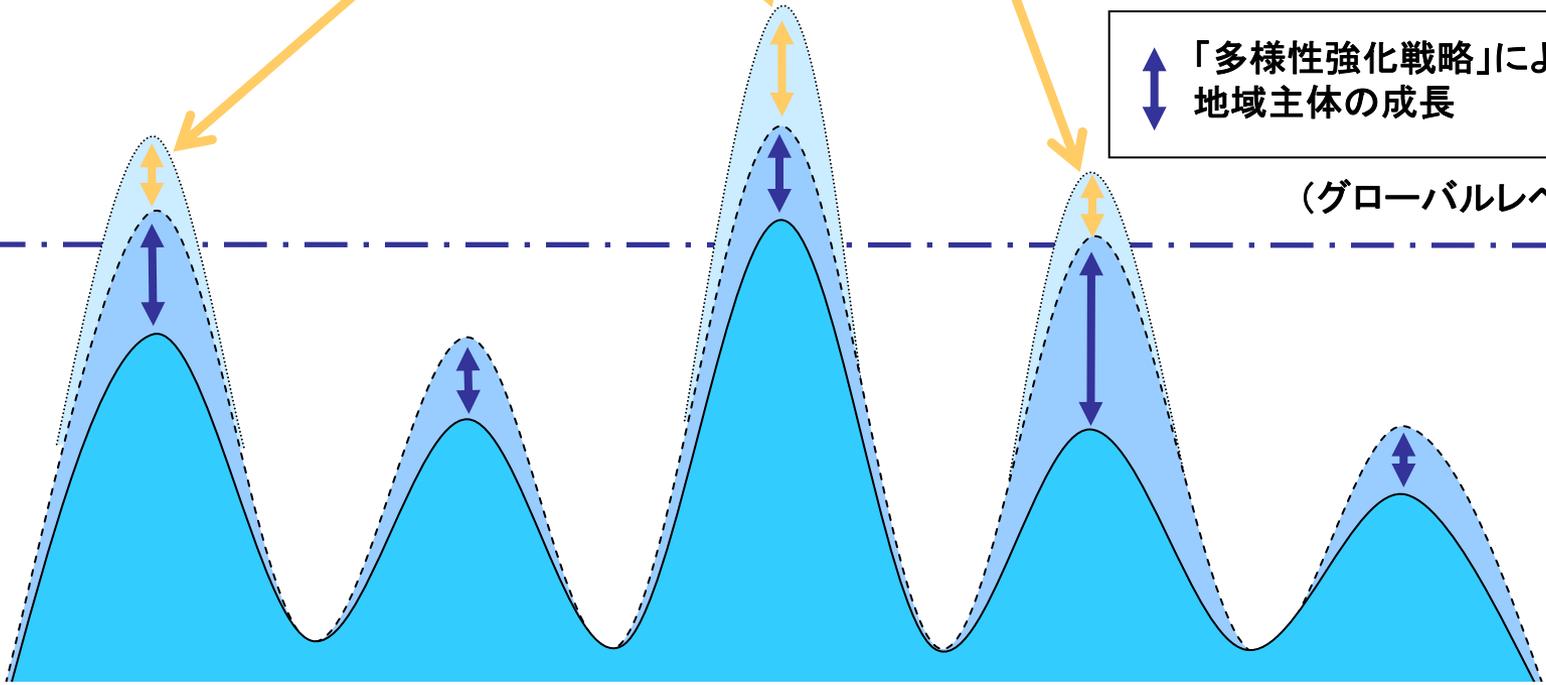
科学技術による地域活性化の程度
(例えば、イノベーション力、科学技術のレベルなど)

グローバル拠点強化戦略(戦略2)

↑ ↓ グローバルレベルの拠点に対する「グローバル拠点強化戦略」による成長

↑ ↓ 「多様性強化戦略」による、地域主体の成長

(グローバルレベル)



地域A

地域B

地域C

地域D

地域E

多様性強化戦略(戦略1)

多様性強化戦略(戦略1)

- 国は、地域科学技術施策を強化し、**地域主体の自律的發展**を後押し
- 地域は、**地域マネジメント**を確立し、地域主体で活性化に取り組む

グローバル拠点強化戦略(戦略2)

- 国は、研究機関、教育機関、企業、産業支援機関などによる世界水準の集積が形成されつつある拠点の中から、国際ベンチマーキングにより比較優位性が認められる「**グローバル科学技術拠点**」候補に対して、**政策資源を重点投入**し、より強くする。

